

## 国立大学法人千葉大学学長の業績評価結果について

学 長： 中 山 俊 憲  
任 期： 令和3年4月1日～令和7年3月31日

評価期間： 令和3年4月1日～令和4年3月31日

### 【評価結果】

国立大学法人千葉大学学長選考・監察会議は、国立大学法人千葉大学学長の業績評価に関する要項に基づき、令和3年度における中山俊憲学長の業績評価を実施しました。

令和4年5月19日開催の学長選考・監察会議において、学長の業績評価の実施手順等について確認するとともに、業績調書に記載された基本方針、大学運営、教育、研究、社会連携・社会貢献、国際化、附属病院、附属学校及びその他の各項目に係る業績について、6月3日まで書面による審査を実施しました。

令和4年6月20日開催の学長選考・監察会議において、中山俊憲学長へのヒアリング及び監事との意見交換を行い慎重に審査した結果、優れていると評価する結論に至りました。

令和4年6月20日

国立大学法人千葉大学  
学長選考・監察会議

様式 2

業績調書に係る審査結果（集計）

評価項目	評価
1 基本方針	4.4
2 大学運営に関する事項	4.4
3 教育に関する事項	4.3
4 研究に関する事項	4.4
5 社会連携・社会貢献に関する事項	4.2
6 国際化に関する事項	4.0
7 附属病院に関する事項	4.5
8 附属学校に関する事項	3.6
9 その他	3.9

※評価は、各委員による評価の平均値を示す。

【評価及び評価内容】

評価	評価内容
5	期待を大幅に上回る業績をあげている／非常に優れている
4	期待を上回る業績をあげている／優れている
3	期待する程度の業績である／良好である
2	期待する業績を下回っている／やや努力を要する
1	期待する業績を大幅に下回っている／努力を要する

## 【特筆すべき事項】 P2～P5

### 【委員 A】

- 新型コロナ禍の状況下で、千葉大学の学生諸君、教職員さらにその家族の方々に対して、迅速かつ適切なワクチン接種の対応をおこなったことは、素晴らしい。
- 特に新型コロナに感染した妊婦の方を受け入れる決定は、全国的に大きな反響を呼び起こした。このことは、千葉大学の存在価値を高めたと評価できる。
- 本年度も、国立大学法人 86 校の中で、最も多くの受験志願者を集めたことは、特筆大書するべきであろう。
- ただ、法科大学院の合格者数が年々、減少していることをどうするか。その対応が必要であろう。

### 【委員 B】

- 中山学長は、徳久学長の積極的な大学運営を引き継ぎ、それをさらに発展させるべく、この 1 年間努力をされてきた。特に、運営、教育、研究に関して、素晴らしく進展した 1 年であった。

#### <運営>

- 運営で大きな進歩は墨田サテライトキャンパスであろう。このキャンパス設置により、千葉大学の伝統である工業デザインは、さらに全国的に注目が集めるであろう。コロナワクチン接種においても地域住民から信頼を受けたのではなかろうか。柏キャンパスへの Rugby 校の招致は、将来にわたり、千葉大に直接的、間接的にプラスとなるであろう。

運営面で考えてほしいのは、教員が教育と研究に集中できる時間を確保することである。このため、会議を少なくし、その時間を短縮するようにしてほしい。

#### <教育>

- 教育では、7 年連続、志願者第 1 位という記録は、千葉大学が学生とその家族から高く評価されている何よりの証拠である。文科省の様々なプログラムに採択されているのも、千葉大の教育が高く評価されている証拠であろう。さらに、学生にとって魅力ある大学にしてほしい。困難なコロナ禍のなかにより千葉大学の一つの看板教育プログラムである ENGINE が大きく影響を受ける中、オンライン留学プログラム、英語教育プログラムを進めた。本来の目的である留学先で現地の教育と学生交流を行う本来の留学をすすめてほしい。

#### <研究>

- 基盤 (S) と (B) が大幅に増え、Top1%論文が 20 件から 28 件になったのは素晴らしい。それに伴い、科研費、その他の外部資金も大幅に増加した。また、A 評価でありながら採択されなかった研究を支援するシステムにより、次年度にはさらに発展することを期待したい。

#### <病院>

- 附属病院は非常に活発に研究と診療を進めている。特にコロナ禍において、たとえば、妊産婦専用のコロナ病床の設置は、全国的に話題になった。「災害治療学研究所」が病院の校にないのは、全学の付置研という位置づけなのであろうか。災害医学研究所の理念が理解しにくいので、いつか説明を頂きたい。

#### 【委員 C】

- 大変意欲的、精力的に大学運営、教育、研究等に取り組んでいることが良く看取できる。未来型総合大学として世界に冠たる大学を目指し、打ち出された方針、ビジョン、計画を推し進めて行くことを期待している。

#### 【委員 D】

- 基本方針として千葉大学ビジョンを策定し、主要 4 分野で具体的方向性を示した事は大いに評価できる。
- 大学運営面では、学外理事 2 人、初の女性理事の配置や、アドバイザーボードの新設でガバナンス強化を図ったことは、評価できる。
- 教育面では、次世代人材計画の策定等、人材育成のための具体策を強化した事は、評価できる。
- 研究面では、国際高等研究基幹の設置、ベンチャー創出支援の具体策などを評価できる。
- 国際化に関しても、“オンライン留学の実施”への積極的取り組みは、大いに評価したい。
- 附属病院に関しても、診療面での積極的コロナ対応、ワクチンセンターの研究成果の発表など、時機を得た対応は社会貢献として、評価したい。

#### 【委員 E】

- 「世界に冠たる千葉大学」を目指して、未来志向型総合大学として発展させようとの意欲に満ちた姿勢に敬意を表します。各方面に目配りがいきとどいており、大学全体がアグレッシブな印象を受けます。特に、受験生を国立大学で最も多く集めていることや、大学附属病院におけるコロナ感染症対応などに成果が表れていると思います。是非、この意欲的な姿勢と広角な視野でもって引き続き大学運営に当たっていただきたいと思ひます。

#### 【委員 G】

- 特筆すべきは、研究、教育ともグローバルレベルを追い越しつつあるところである。大学の基本方針もその線に沿っており、デジタルトランスフ

オーメーションも進んでいると聞く。しかし一方で、ガバナンス機能の検証は定期的に繰り返されなければならない。

特に COVID-19 の席卷の中、本学は難しいかじ取りを迫られているが、その中でも世界最先端の研究を行い、グローバルな人材育成を目指している点はきわめて高く評価される。特に教育はすべての中心であり、グローバル人材育成 ‘Engine’ は、国際人を育てる組織としてきわめて重要である。

一方、大学の経営戦略をさらに発展させることはその基盤安定のために重要であり、経営戦略基幹およびアドバイザリーボードの新たな設置はきわめて有意義と思われ、これを活かして欲しい。

千葉大学は日本の大学では第三群に属しており、国際的な競争力を全学としてさらに発展させていくことは急務であり、その努力を継続することが必須と思われる。その意味では、戦略的な大学運営を今後とも行うことが重要であり、各学部間に存在する格差をなくし、国際的レベルまで向上させる努力が必要不可欠である。それが可能になったときに、本当の意味で社会に大きく貢献できるであろう。

#### 【委員 H】

- 学長の新たなビジョンに基づいた着実な大学運営が行われている。研究面での国際高等研究基幹の設置、教育面での国際未来教育基幹の改組など、コロナ禍の制約下でも学長色を積極的に打ち出して攻めの経営を行っている。ENGINE プランも、オンライン留学を利用するなど、国際化を継続的に進めている。附属病院の改築やコロナ対応への取り組みだけでなく、災害治療学研究所の設置など、時宜を得た改革も高く評価できる。

#### 【委員 I】

- 国際高等研究基幹の設置をし、研究支援プログラム制度の新設や科研費採択挑戦サポート等の支援を行うことは評価できる。
- 新型コロナウイルスワクチン職域接種を本学の教職員・学生だけでなく、近隣大学の学生・教職員等も対象にして行った点は高く評価できる。
- 本学医学部附属病院に勤務する若手医師や国内外で活躍中の本学医学部出身の医師らが中心となり「こびナビ」を運営し、新型コロナウイルスワクチン接種の啓蒙活動をしていることは評価できる。
- コロナワクチンセンターの研究成果や重症者、妊産婦並びに新生児の受け入れ、職域接種への派遣は、高く評価できる。

#### 【委員 J】

- 前学長の体制からの取り組みを安定的に継承できており、コロナ禍における対応の難しさがあったことを考慮すれば、期待される水準にあると判断できる。

- コロナ禍における附属病院の取り組みについては、社会的な評価も高く、期待を上回る水準にあると判断できる。
- 理事等の増員や学内組織の改編などの体制整備の取り組みが積極的に行われているが、その効果や成果が現れるのは今後であると考えられる。したがって、これらに関する評価については今後待つ状況にあると考える。

#### 【委員 K】

- 国際高等研究基幹の設置による研究の推進が行われた。  
JST「次世代研究者挑戦的研究プログラム」に採択され、学生が博士後期課程に進み研究者になることのインセンティブとなった。  
千葉大学災害治療学研究所が設置され、千葉大学の特徴である治療学と、学際的な災害学が結びつき、新たな災害治療学の進展が期待できる。

#### 【委員 L】

- 墨田サテライトキャンパスの開設は千葉大学の新たな展開として重要拠点となり得る。
- 「全方位イノベーション創発博士人材養成プロジェクト」が、JST「次世代研究者挑戦的研究プログラム」に採択され、学生に対しいへん重要な支援策となり、研究に専念できる環境を作り出している。
- 莫大な寄付金を獲得し、災害治療学研究所を設置することができた。災害多発の現在、非常に重要な拠点となる事が期待される。
- 環境リモートセンシング研究センターが、「静止気象衛星観測網による超高時間分解能陸域環境変動モニタリング国際研究拠点」として令和3年度 JSPS 研究拠点形成事業に採択された。カーボンニュートラルに向けた陸域環境モニタリングへの貢献と、この分野の牽引が大いに期待される。
- 新型コロナウイルスの感染拡大防止に向けて、新型コロナウイルスワクチン職域接種を行い、社会貢献を展開した。
- コロナワクチンセンターの研究成果を発表、さらに塩野義製薬と提携し、「ヒト粘膜ワクチン学部門」を設置し、今後の展開が大いに期待される。
- 「Rugby School Japan」の開校へ基本合意書、協定書を締結、千葉大学の新たな魅力発信へ期待される。

#### 【委員 M】

- これまでと比較しますと、研究に関する業績が飛躍的に伸びており、中山学長のもとでの千葉大学の発展が期待されます。

## 【その他のコメント】 P6～P7

### 【委員 E】

- 事務職員の学務的な能力向上に資するアカデミック・リンク・センターの事業をはじめ、事務局体制の充実を考えた取組みは素晴らしいと思います。

### 【委員 F】

- 前学長からの大学運営等の継続も安定的である他、新学長としての新基軸も種々拝見でき、就任一年目として十分な業績と判断される。

### 【委員 G】

- 新型コロナウイルスワクチン職域接種を積極的に行っており、社会貢献の面より望ましい。コロナワクチンセンターができ、ヒト粘膜ワクチンの開発が積極的に行われることにも大いに期待したい。

附属病院は本学の経営に大きく貢献している。その一方で「確認不足」などの基本的な過誤をなくすことが、本学の評判をさらに向上させるために必要不可欠である。カルテの記載、問題点の抽出などの基本的な作業を地道に行うことが必要と思われる。

その他、Rugby School Japan の受け入れ、民間からの高額な寄付など新機軸と評価される動きが多角的に行われており、本学の存続理由のさらなる発展につながっていると思われる。

### 【委員 H】

- 社会連携・社会貢献に関しては、令和 3 年度中は改革の緒についたばかりであり、令和 4 年度以降の展開に期待したい。

キャンパス利用については、亥鼻キャンパスの積極的な開発、松戸キャンパスの着実な運営は評価できる。他方で、西千葉キャンパスの東大からの新規取得地域の利用、柏の葉キャンパスのラグビー校開校後の将来構想など、今後検討すべき課題が多い。

専門職大学院、特に専門法務研究科の将来についての抜本的な再検討が必要である。

### 【委員 I】

- コロナ禍あけの ENGINE について、実際の留学に向けて十分な体制を取ってほしい。

### 【委員 J】

- 財政状況の悪化が年々深刻化し、基本的な教育を維持することすら困難な状況が生じていることに加え、必要な教員の確保の見通しも立たない状況が続き、現場は疲弊し無力感が漂っている。こうした根本的かつ深刻な

問題に対する課題認識や対応策、解決に向けた将来ビジョンなどについて業績調書に何らかの記載があるべきだったと考える。

- 上記のような厳しい状況において、教職員の士気の低下を食い止めるための方策など、組織の活力を維持するための取り組みや方針についても何らかの見解が示されるべきであると考ええる。

#### 【委員 L】

- IMO における URA の配置や企業等とのコーディネート活動の強化、未来医療教育研究機構（亥鼻地区担当）の URA 機能強化とあるが、亥鼻地区における活動は未だ不十分と考える。

#### 【委員 N】

- 1年目であり、今後の成果が期待される。
- 高い理想、ビジョンと現実のギャップをどう埋めていくか？
- 指定国立大学法人を目指すのであれば、それを目標の1つとして掲げ、その達成へ向けてのマイルストーンと各教授の達成度を「見える化」することが必要のように感じる。
- 旧七帝大では女性教育、外国人教員の採用に多大な力を注いでいるようである。千葉大は今ままで大丈夫であろうか？